

東公民館

二名神社夏祭り

出作公民館主事

弓達利雄

本年度の分館活動の大きな行事であった出作夏祭りが、8月1日(木)に二名神社境内で行われました。

出作夏祭りは、昭和45年に有志が舞台を設けて演芸を催し、輪越しの祭祀に來た方を楽ませたのが始まりで、昭和62年から公民館行事として、毎年この日に現在の形式で実施されております。

今では二名神社夏越し(輪越し)大祭時における夏の風物詩として、広く住民に親しまれているところです。

この日、金魚すくい・水ヨーヨー・かき氷の模擬店前にはおばあさんに手を引かれた幼子やゆかた姿の子どもの嬌声が響き渡り、また、冷え冷えのビール・ジュース店の前では若者が久しぶりの再会に笑顔での会話が弾み、香ばしい匂いのする焼きイカ・焼きとうもろこしの夜店にはビール片手のお父さんをはじめ大勢の方が並びました。また黄昏から始まった演芸



▲夜店も大にぎわい

大会ではカラオケ自慢が次々出演してヤンヤの喝采を受け、中でも89歳の女性演歌には万雷の拍手でした。

見事な日舞、特別出演の東公民館長(出作在住)の手品などが次々と披露され、舞台前に陣取った三世大家族などの観客を大いに楽しませました。

最後に行われたビンゴゲームでは待ちかねた子どもたちの声に攻められ、大わらわで次々と景品を渡したものです。この日、いつか夜の帳につ



▲館長さんも特別出演

つまれた境内には、煌々と灯が輝いて、明日の出作を担う元気な子どもたちの笑顔を浮かび上がらせ、日ごろは静寂な鎮守の杜に、善良な老若男女のこやかな笑い声がいつまでも木霊していました。

こうして先人たちがより伝承された「出作人による出作のための出作の夏祭り」を無事に終えることができました。全てが素人集団の手作り催事とはいえ、真夏の夜の一時を家族で楽しみ、和やかなふれあいの場として住民相互の絆を深めることができたものと確信し、実行委員一同「ホッ!」としたものです。

ふるさとをたずねて

貴布祢神社

文化財保護審議会委員

白石純雄

北黒田264番地に貴布祢神社がある。当社は、和銅5年(712)8月越智玉純が大三島宮より大山積神、別雷神、高麗神を勧請して一の宮大明神と称して創立したと伝えられている。神龜5年(728)9月には、山城国愛宕郡より貴船大明神を勧請して貴船神社と号した。後に今の貴布祢神社に改めた。以後社運は隆盛を極めたが、強風による出火や戦禍により社殿消失した。

慶長5年(1600)松前城主加藤嘉明が社殿を造営社領百石を寄進した。以来、神官の誠意ある奉仕や住民の尊崇により地域の文教・教育の中心となつて現在にいたつた。境内に高市山城正盛房の頌徳碑(高さ1・9メートル幅1メートル)がある。盛房は神官として誠意をもつて奉仕する一方、庶民を対象とした私塾を開き、農家の子弟の教育に努めた(安政3年から明治5年まで)。その「掟」には次のように示されている。

①上の御命令は確と守りそむ

かないこと。②父母に孝行を尽くすこと。③子弟の間は常に親密を旨とし、仮にも我がままのふるまいをしないこと。④途中においてけんか口論をなし、通行人の妨害となる遊びをしないこと。⑤帰宅後は、本の復習を怠らないこと。

後世の初等教育の義務制の考えを先がけるものとして、伊予における代表的な私塾であつたと考えられる。「村に不学の徒なく呶唔(なや)の声(書を読む声)郷に立つ」とその教育をたたえられ、明治44年に門弟より頌徳碑が建立されたのである。

美しい緑と玉垣で囲まれた境内には、幅1・9メートルの石畳の参道が53メートル続いている。森の広葉樹は元気であるが、松は近年12本が枯死した。老人クラブの有志の方が若木を補植し、成長を願っている。

また、月2回地区のボランティアの方々が清掃を行っている。いつまでも尊崇の心で大切にしたいと考えるものである。